



～野菜類及び花き類 オオタバコガの発生に注意～

発生概況について

- (1) オオタバコガ雄成虫のフェロモントラップへの誘殺が、6月5半旬から7月3半旬にかけて多く、その後も誘殺が続いています(図1)。
- (2) 7月中旬に県中西部で、多数の幼虫の発生が確認されています。
- (3) 8月上旬以降、次世代の発生が増加すると予想されます。
- (4) 寄主範囲は広く、野菜類ではなす、トマト、ピーマン、オクラ、すいか、きゅうり、えんどう、いちご、キャベツ、レタス、きく、未成熟とうもろこしのほか、花き類のバラ、カーネーション、宿根かすみ草、トルコギキョウなど、多くの作物を加害します。
- (5) ほ場での幼虫の発生量は、立地条件や、これまでの防除により、大きく異なるため、必ず発生状況を確認しましょう。幼虫の発生を確認したら、直ちに防除してください。

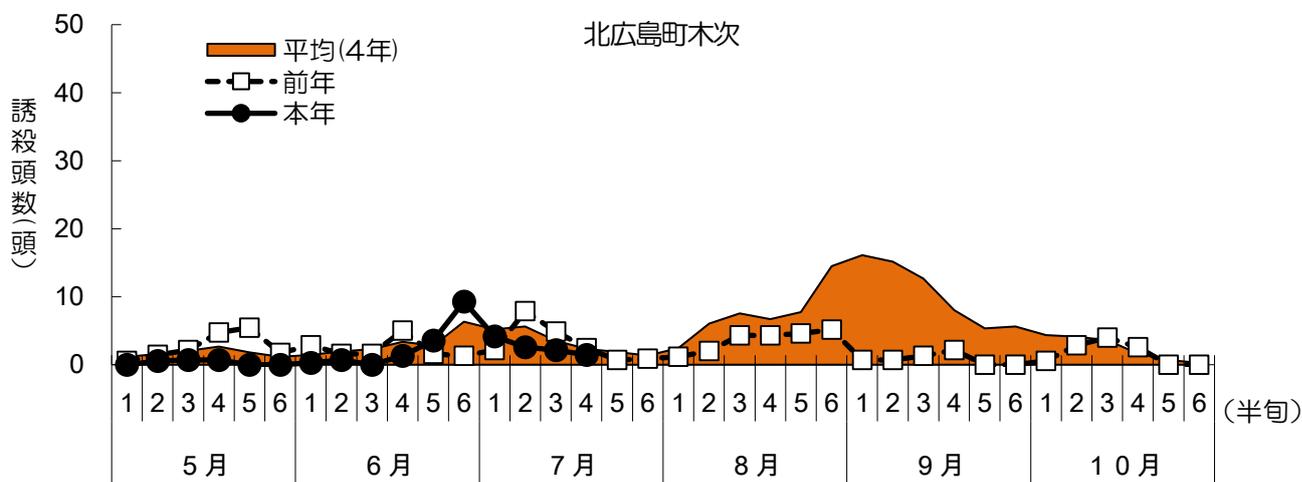
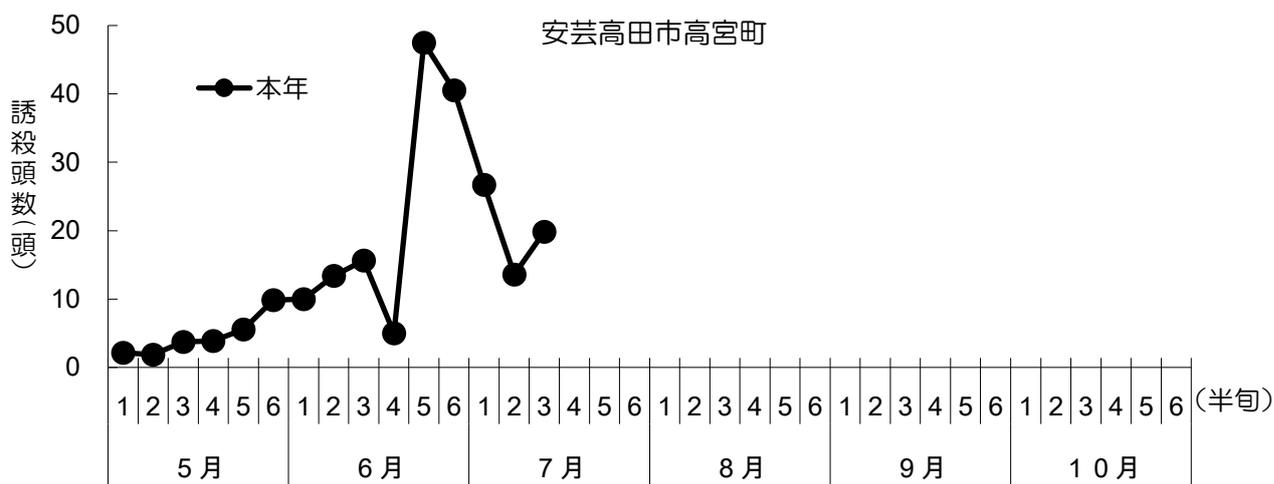


図1 フェロモントラップへのオオタバコガ雄成虫誘殺数の推移

防除対策について

- (1) オオタバコガは成虫がほ場に飛来、植物体に産卵し、孵化した幼虫が農作物を食害します。
- (2) 穴の開いた果実には幼虫が食入していると考えられるので、早期に摘果し、幼虫は捕殺してからほ場外へ持ち出し、処分しましょう。
- (3) 果実等へ食入した幼虫は薬剤が効きにくいので、若齢幼虫期に防除しましょう。
- (4) 防除適期は、フェロモントラップの誘殺ピークからおおよそ4日後（平均気温 25℃の場合）が目安となります。
- (5) 薬剤抵抗性回避のため、異なる作用機構の薬剤をローテーション散布しましょう。
- (6) 薬剤散布については、農薬使用基準を遵守しましょう。周辺作物への飛散防止対策を行い、収穫時期が近い作物がある場合などは、特に注意しましょう。
- (7) ハウスの場合、開口部に4mm目合以下の防虫ネットを張ると、成虫の侵入を防ぐことができます。
- (8) 最新のフェロモントラップへの誘殺状況は、「ひろしま病害虫情報」ホームページでご確認ください。



図2 卵（実体顕微鏡下）

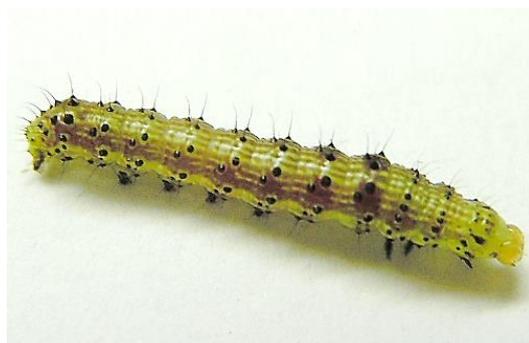


図3 老齢幼虫



図4 成虫



図5 トマトへ食入する幼虫

● お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
〒739-0151
東広島市八本松町原 6869
TEL : 082-420-9662 (直通)



ひろしま病害虫情報

(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>)

ひろしま病害虫情報

検索

ホームページ
リニューアル!

